

BCP 浸透へ議論

日さく、古郡建設ら登壇

産業会
県懇談
玉振興
郡振興

埼玉産業人クラブ（会長・増田文治マスタック会長）は11日、さいたま市のロイヤルパインズホテル浦和で第46回埼玉県産業振興懇談会を開いた。写真。日さく（さいたま

市、若林直樹社長）、古郡建設（埼玉県深谷市、古郡栄一社長）などが参加し、BCP（事業継続計画）などについて活発に議論した。

「持続可能な企業成長を目指すレジリエント経営戦略」をテーマにした企業プレゼンテーションで、若林社長は自社のBCPについて「新たな知見を取り入れ、社員一人ひとりにBCPを浸透させる。

会社は災害時に社員とその家族の命を守らなければならぬ」と強調した。さく井工事や井戸メンテナンスなどを手掛ける会社として「災害時の水供給としての井戸設置を呼び掛ける」とも語った。

古郡建設の渡辺文昭デザイナーマネジメント部長は、自社のBCPやブランディングなどを紹介した上で「さまざまな取り組みを継続することで、社内スタッフに共感を生み、協力的になってくれる。SNS（交流サイト）などで“推し”になってもらうと、採用活動や事業継続につながる」と話した。

その後の県幹部との意見交換会で若林社長は、県内で優れたBCPの取り組みをしている中小企業の事例紹介や認定制度の創設を求めたほか、単独企業で対応できない課題の解決に向け「地域連携BCPへの取り組みが急務だ」と主張した。また、県内に工業高等専門学校がないことへの危機感もあらわにした。

古郡社長は、県内中小企業の人手不足について「今後このことを考えるとまだまだ不透明。担い手がいないと産業が危くなるだけでなく、地域の守り手がなくなる」と訴えた。

